

社長インタビュー

家族に自慢できる会社へ成長を目指す

岩田産業(大阪府) 代表取締役社長 岩田 昌幹 氏

金属スクラップのリサイクル事業を行っている岩田産業(本社=大阪府東大阪市)の岩田昌幹社長はこのほど、会社の強みを生かし様々な取り組みを実施している。社長に就任して約1年が経過する岩田社長に社長就任の感想や意気込みについて話を聞いた。



また当社は常に大阪全域でスクラップの引き取りを行っている。そのため、急な仕事の依頼があったとしても、素早く自社便で配車を手配することも強みにあげられる。さらに大阪、京都、奈良、兵庫、和歌山には協力関係にある同業他社様がいる。そこからの配車の手配も可能なので、迅速に引き取りができる応援体制も万全だ。

基本を守り事業進める

—社長に就任してからの感想は。

社長業とは責任の重い仕事だなということが率直な感想だ。これまでの会長の苦勞が分かることができたと思う。また当社には勤続20~30年の運転手など長く働いてくれている社員がいる。その熟練の技術は当社の強みであり、私も様々なことを学ばせて貰った。この場を借りて社員と会長には感謝を申し上げたい。

岩田 昌幹 社長

—新しく取り組んでいることは。

事務員のリモートワークに取り組んでいる。家事や育児などで出勤ができない時でも、自宅で仕事できるようにノートパソコンを支給し、外部からアクセスするためのリモートコントロールのソフトウェアを導入した。導入以降、事務員からは「仕事と子育てとの両立がしやすく助かっている」と喜んでもらっている。

現在、スクラップの月間扱い数量は約2,000トンだが、3,000トンにまで伸ばしたいと考えている。ただ当社はスクラップの引き取り事業を専門にしており、ヤードを持たないので、会社規模の拡大など大きなことはできない。基本を守り、お客様のご要望に応えながら少しずつ事業を進めていければと思う。

—前職は財務省関東財務局に務めていたと聞いている。

関東甲信越地区を担当し、国有財産・主計関連の仕事に携わっていた。家業を継ぐつもりはなかったが、年齢を重ねるにつれ、将来を考える機会が多くなった。そんな時、実家は自営業だったことを思い出し、当時は社長をしていた父親に仕事の内容を聞き、興味を持ったことが入社のかっけとなる。行政機関は潰れないが、民間企業は潰れることもあるので、転職はかなり迷った。しかし、やらない後悔よりもやる後悔のほうが良いと思い入社を決めた。

社内体制を整え自慢できる会社へ

—今後の意気込みは。

鉄スクラップは99%リサイクルすることができるので、金属リサイクル業界はこれからも必要とされるはずだ。不適正ヤードの問題などの課題はあるが、襟を正して社内体制を整え、家族に自慢できる会社へ成長を目指したい。

最近では関西地区の若手経営者らと会社の将来について話す機会が多くなり、全員が業界を良い方向に変えていきたいと言っている。改めて、我々のような次世代が業界の改善に対する意識の強さを感じることができた。これからは当社も少しでも業界の地位向上に尽力したいと考えている。

同業他社と協力関係

—御社の強みは。

同業他社様とのネットワークを構築していることが強みだ。当社は工場やゼネコンなどのお客様を中心に持ち、現場に赴いてスクラップの引き取りを行っている。引き取ったスクラップは地元の同業他社様に降ろして、次の引き取りの現場に移動し、そこでも同様に地元の同業他社様に降ろして、次の現場へ移動している。そのため、同業他社様と競合することなく、幅広く良好な協力関係を築いていると自負している。

略 歴

1980年1月20日生まれ。44歳。大阪府出身。2002年近畿大学理工学部経営工学科卒業。2007年北陸先端科学技術大学院大学の知識科学研究修士課程修了後、財務省関東財務局に入局。2016年岩田産業に入社し営業部長としてスクラップの営業に携わる。2023年5月代表取締役社長就任。趣味はゴルフ・旅行。